



分科会 10 長期実務実習元年 —実りある実習を求めて—

W-10-03 第 I 期実務実習を終了して

とだ じゅん
戸田 潤

昭和薬科大学 医療薬学教育研究センター 教授
(病院・薬局実務実習関東地区調整機構 委員長)

薬学6年制教育では、臨床に係る実践的能力を培うことを主たる目的として、高い実践能力を有する人材の育成のため、教育内容はもとより、科目縦割型から統合型へと教育の考え方も仕組みもこれまでに比べて大きく変換させた。特に薬剤師実務実習では臨床能力の伸長を目指し、指導薬剤師と大学教員の協働の下、病院、薬局でそれぞれ11週間と大幅に延長して行うことになった。

こうした革命的变化の中で、今年5月中旬から実務実習がスタートし、第I期生が、病院で、薬局で薬剤師実務を体験した。関東地区調整機構では、実習教育の変革が学生の成長にどのように寄与したかを見るために、学生および指導薬剤師を対象として実習の各期終了後にアンケート調査を実施することにした。この調査ではモデル・コアカリキュラムのSBO毎に、学生には「どれだけできるようになったか」、また「不十分な点は何か」の観点から到達度を、指導薬剤師には「学生の能力をどれだけ伸ばせたか」を指標に指導力について、それぞれ自己評価をしてもらう。両者のデータから実務実習のカリキュラムを評価し、改善すべき点の洗い出しをすることになっている。

このアンケート調査は来年度以降も続けて行く予定であるが、今年度はスタートの年であり、彼らの成長度を指標に期毎の結果を比較して実務実習の成果を確認していきたい。

また、関東地区では、アンケート調査とは別に、実習に関連して起きる諸問題についても情報を収集し、解析することで、学生の実習環境をより良いものに改善することになっている。第I期実習中に抽出された問題についても併せて報告する。